平和記念だより 82

2022年1月

◆編集・発行/高松市市民政策局人権啓発課　高松市平和記念館
◆連　絡　先/高松市松島町一丁目15番1号　たかまつミライエ5階
〒760-0068　TEL(087)833-2211　FAX(087)833-2244

平和学習(こども未来館学習)

新型コロナウイルス感染拡大により、平和記念館では、今年度予定していたいくつかの行事が変更になったり中止になったりしました。こども未来館学習の平和学習についても夏休み前までは予定通り実施できたものの、９月中は中止、その後は感染状況等を考慮しながら実施しています。単独の平和学習についても同じような状況です。

このような中、こども未来館学習及び単独の平和学習に、４月から現在(12 月末)までに５２校(約3,000 人)の皆さんに参加していただきました。多くの児童・生徒の皆さんが、熱心に学習に取り組み、真剣に考える姿を見てたいへんうれしく思っています。今回は、平和学習実施後にいただいたお便りの中から、感想や意見の一部を抜粋して紹介します。また、次ページでは、平和学習(こども未来館学習)の学習内容を説明しています。今後の平和学習実施の際にお役立てください。

平和学習実施校の皆さんからのお便り(抜粋)

初めて戦争のことについて知りました。目の前で人が死んでしまったり、食べ物が食べられなかったり、家が焼かれたり、たいへんだったことがよく分かりました。自分たちがどれだけ幸せで楽しい生活を送れているかをよく考えて、戦争がない未来をわたしたちが作ります。

昔の人たちが戦争で亡くなったり、夜もくうしゅうがこわくてねむれなかったりしたことが分かりました。印象に残ったのは服を切符で買っていたことです。今の生活との違いにおどろきました。

平和学習でお話を聞いて、昔のくらしの大変さについてよく分かりました。戦争は人々のくらしを苦しくするということが分かりました。だから、平和に生活できていることに感しゃの気持ちをもちたいと思いました。

平和学習では戦争のことがよく分かり、家に帰っておばあちゃんに聞きました。おばあちゃんは「戦争でいろいろな物を失った。」と言っていました。戦争のことを少し知ったので、もっと勉強したいと思います。

平和学習(こども未来館学習)の学習内容

◆展示資料【当時の小学生の学校生活、軍事教練、勤労奉仕、学徒動員 等】

展示資料を見ながら説明を聞き、戦争のために、多くのことが犠牲になっていたことを知ります。

◆映像【おばあちゃんお話して(戦争中の暮らし)】

おばあちゃんが孫娘に戦争中のことを語りかける映像検索コーナーで「戦争中の暮らし」を視聴。食料の配給制や衣料の切符制などの説明を聞き、物資の不足により苦しい生活であったことを知ります。

■戦前・戦時下の高松

■高松空襲

◆模型【集束焼夷弾、B29 爆撃機】
◆実物資料【焼夷弾】
◆ジオラマ【高松市の被害状況】
◆展示資料【戦災都市の死者】

実物資料等を見ながら説明を聞き、焼夷弾が恐ろしい兵器であることを知ります。ジオラマで高松の被害状況を確認します。また、高松だけでなく、全国の都市が空襲の被害に遭ったことを知ります。

■平和への取組み・核兵器の廃絶

■終戦・戦後の高松

平和記念館には、「戦前・戦時下の高松」「高松空襲」「終戦・戦後の高松」「平和への取組み・核兵器の廃絶」の四つのテーマごとに戦争遺品や関連資料を展示しています。

平和学習では、この中の「戦前・戦時下の高松」「高松空襲」のコーナーと映像学習室の展示物・映像を活用して、「戦時下の人々の生活」と「高松空襲」について学びます。平和学習担当職員が解説を加え、学習者は学習シートに記入しながら歴史を学びます。質問をしたり感想をまとめたりすることで、平和について考えるきっかけとなります。

●映像学習室

◆絵画【経験した人が描いた空襲の様子】
◆写真パネル【空襲直後の高松の様子】
◆映像【空襲(アニメーション動画)】

展示している空襲絵画や写真パネル、スクリーンに映し出された空襲の様子を視聴し、空襲とはどのようなものであったかを想像します。また、高松空襲の被害状況（被害面積や罹災者数等）の説明を聞き、この街で実際に起こった出来事としての認識を持ちます。

平和映画☆上映会のお知らせ

平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

1月の上映 「あした元気になーれ」（90 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝、午後２時上映開始

解　説▶　東京大空襲で戦災孤児となったかよちゃんときい兄ちゃん兄妹が、終戦直後の貧困と不安の時代を明るくたくましく生き抜いていく姿を描いた長編アニメーション。語りは吉永小百合さん、主人公かよ子の声は上戸彩さん。原作は海老名香葉子さんの「半分のさつまいも」。

2月の上映 「かんからさんしん」（78 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝、午後２時上映開始

解　説▶　太平洋戦争末期、避難していたガマ(洞窟)の中で、手りゅう弾を手に死を覚悟する人々。それを思いとどまらせたのは、ガマの外から聞こえてくる島唄の懐かしい音色であった。「生きる」ことの意味をサンシンにのせて唄う人々と、沖縄戦の悲惨さを描いた長編アニメーション。

3月の上映 「火の海・大阪」（20 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝、午後１時上映開始

解　説▶　家族に囲まれ、幸せな毎日を送るサチコ。しかし、サチコには決して忘れることのできない思い出があった。それは、大阪の街を襲い、大勢の尊い命を奪った空襲。幼い妹が亡くなり、自らも大けがを負った。戦争体験者の声と実話をもとに、戦争の恐ろしさを描いた短編アニメーション。

※　都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

▼今後の行事予定▲

2,3月

● **高松市戦争遺品等収蔵品巡回展**

期　日　令和４年２月２６日（土）～３月２１日（月・祝）

場　所　石の民俗資料館(牟礼町)

内　容　市民の皆様から寄贈された戦争遺品を中心に展示

※　新型コロナウイルス感染症の拡大などの状況により、開催を中止・延期する場合があります。

収蔵品紹介72

茶碗（高松空襲被災）

寄贈者　　池田　由布子 様

普段は使わない高価な茶碗。大きさ(高さ７ｃｍ×直径１０ｃｍ)。茶碗の外側、内側には湖面を進む舟、山々や家並みなどの風景が描かれている。底には「弘化改元吉祥日」等の文字が焼き付けてある。

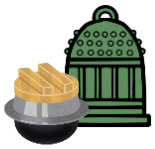
高松空襲による火災の熱で、茶碗は変形し表面が黒く焦げており、戦禍のすさまじさを物語っている。

寄贈者の祖母は、当時高松市西瓦町に住んでいた。空襲に備えて多くの家財は郊外に移していたが、この茶碗は、自宅の庭に埋めていた。祖母は、焼失は免れたものの大きく変形してしまったこの茶碗を手に、寄贈者に戦時下の話をよくしていたそうである。

平和記念館「最近の寄贈品」コーナーに展示中

戦時用語解説 64

供出



【読み】きょうしゅつ

【分類】戦時中のくらし

供出とは、政府等の求めに応じて差し出すこと。1941(昭和 16)年、政府は兵器生産のために金属回収令を施行し、鉄、銅、銅合金製品を供出させた。全国各地で、寺の鐘、街灯、看板、鉄製ポストなどが回収され、木製や陶製の代用品が支給された。一般家庭も門扉や日用雑貨などの金属製品を供出した。自発的にという建前であったが、実際は強制的なものであった。

1943(昭和 18)年には貨幣も金属回収令の対象となった。政府は貴金属やダイアモンドなども供出させ、安い公定価格で買い上げた。廃品回収も徹底的に行われ、軍需生産に回された。鉄くず、ガラス、綿、毛織物、紙などが回収され、再利用された。

参考：「資料が語る戦時下の暮らし」
羽島知之　編著　麻布プロデュース

編集メモ

高松市平和記念館は、令和３年１１月２３日に開館５周年を迎えました。この間、新型コロナウイルス感染防止のため、休館したり行事を中止・変更したりする状況の中、５年間で 91,284 人の来場者を迎えることができました。前身である平和記念室は「平和な世の中を築くために、戦争体験を次の世代に語り継がなくてはならない」という市民の皆様の声から生まれました。平和記念館はその思いを引き継いでいます。これからも、皆様の平和への願いを力として、館内の展示や平和記念事業、平和学習を充実、発展させていきたいと思います。

たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ５階）

開館時間：午前９時～午後５時（入館は午後４時 30 分まで）
休 館 日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入 館 料：無料
▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）　▲QR コード
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html

▶次回 83 号発行は、2022 年 4 月です。